



布施だより

《 歴史の美智探訪 》

～ 京都・奈良に青春の1ページを刻み、最高の修学旅行にしよう ～

「京都・奈良に青春の1ページを刻み、最高の修学旅行にしよう」をスローガンに、4月15日(火)～17日(木)の3日間、3年生諸君が奈良・京都への修学旅行の追究に行ってきました。旅行を通してまた一歩成長した生徒諸君の活躍を、3学年修学旅行担当の小沢正太郎先生が渾身のレポートで紹介します。

～ ～ ～ ～ ～ ～

【1日目】出発～いざ奈良へ

朝、5:30という早い集合時間にも関わらず、昇降口前は生徒たちの熱気があふれていました。これから始まる3日間の旅行に思いを馳せ、どの顔もきらきらと輝いています。

道中は、クラスごとに統率係の考えてくれたレクを行いながらバスに揺られました。あいにく、近隣の中学校と日程が重なってしまい、SAでの休憩時には大変混雑していました。

最初の見学場所は奈良、興福寺国宝館と奈良公園でした。国宝館では、人の流れに押されながらも、阿修羅像をはじめとする数々の国宝に目を奪われました。東大寺では、総合的な学習の時間に学んだ歴史的建造物の保存に力を注いできた人々の思いに触れ、金剛力士像の迫力に驚き、奈良の大仏の大きさに息をのみ、じっと眺める生徒の姿がありました。

奈良公園では、鹿せんべいを手に、鹿たちと触れ合いました。最初はおそろおそろ手を伸ばしていた生徒たちも、鹿がせんべいを食べると、ほっとした様子で楽しんでいました。

続いての見学地は法隆寺でした。クラスごと記念写真を撮影した後、金堂、五重塔を見学しました。日本最古の木造建築に触れ、生徒たちはどのような思いを抱いたのでしょうか。

宿は京都市内にある「お宿 いしちょう」です。夕食のすき焼きをお腹いっぱい食べ、みんなでお風呂に入り、就寝しました。しばらく聞こえていたひそひそ声も、きっとみんな疲れていたのでしょうか、しばらく経つと今度は寝息が静かに聞こえてきました。(笑)



【2日目】京都市内タクシー見学～延暦寺

朝6：00。伊藤先生のさわやかな起床の放送で、2日目がスタートしました。急いで朝食、支度を済ませて、宿の方と先生方に見送られていざタクシー見学へ！

「生徒の生活ノートから」

2日目は1日班別のタクシー見学でした。タクシーの運転手とガイドさんにあいさつをして出発しました。三十三間堂では、千体の観音像が待ち構えていました。自分の顔そっくりの奴の他にも、〇〇君そっくりの像を見つけました。手が40本ある中尊千手観音坐像は、一つの手で25の世界を救うという言い伝えがあります。観音菩薩を守る風神雷神を見ました。東寺には金堂・講堂を含め、約25個国宝に指定されているそうです。嵐山には大きな竹がありました。そしてすごく傾斜がきつかったので疲れしました。熊蜂も何匹か現れたので、班長と一緒に驚きました。



そして昼食には天ぷらそばとカレーを食べ、いざ北野天満宮へ！！ここでは学問の神・菅原道真に合掌をしました。白峯神社では「闘魂」というお守りを買いました。下鴨神社では、ついに外国人の人と英語で話しました。少し戸惑ったけど、授業を思い出し、何とかすべての質問に答えてもらいました。川はとても澄んでいてきれいでした。

最後は銀閣寺に行きました。少し上の方の山に登っても、下の方で見ても絶景でした。そして、無事延暦寺に着くことができました。そして根本中堂で「日々これ修行なり」という法話を黙って30分聞き、終わったら「空も飛べるはず」を奉納しました。すごくのびのびと歌えました。2日目はめちゃくちゃ疲れたので、10分かからずに眠りについてしまいました。

…タクシー見学を終え、延暦寺に集合したときの「楽しかった～！」という生徒の言葉にすべてが表れていたように思います。根本中堂での合唱は、正座後の足のしびれを感じさせない、素晴らしい歌声が比叡山に響き渡りました。

【3日目】清水～クラス別～帰路

朝6：00。おなじみ伊藤先生のさわやかな起床の放送で、3日目がスタートしました。朝食をたっぷりいただき、支度を整えて部屋の最終点検。そして出発式を済ませ、まずは清水寺へ。Go！

清水寺の見学のあとは、お楽しみの買い物です。「誰に何を買おうかな」と顔をほころばせながら、修学旅行生であふれた清水坂をかき分け買い物をする姿がありました。



その後は、クラス別に見学地をまわりました。どこも大変な混みようで、なかなかじっくりと見学することはできなかったかもしれませんが、ガイドさんの言葉に耳を傾けたり、神社やお寺を眺めたりと、有意義な時間を過ごしました。

草津 PA で全クラス合流し、いざ帰路へ。混雑していたこともあり、時間をおしての帰り道となりました。急遽解散式を中止し、方面別バスの乗り換え場所を姨捨 SA に変更するなど、いろいろとありましたが、生徒たちの機敏な動きもあり、無事時間通り帰校することができました。

一生で一度の修学旅行。生徒たちはたくさんのものに触れ、たくさんのことを感じたことでしょう。卒業後、修学旅行の思い出を語り合ったり、再び奈良京都へ行ったときに修学旅行のことを思い出したりと、そんな一生の思い出になってくれればと思っています。貴重な経験をさせていただいたこと、無事に帰ってこられたことに感謝です。



～ ～ ～ ～ ～ ～
修学旅行を通じて、3年生は多くのことを学びます。文化と歴史に触れると共に、普段見ることのできない仲間の活動に触発され、またいかに多くの労力によって旅行が成り立っているのか・・・を感じ取り、また一步青年としての成長を遂げていきます。そうして本当の、本物の3年生になっていきます。

1週間ぶりに学校生活に戻った3年生諸君の表情には、いくばくかの自信と謙虚さが垣間見られるのです。

《 長野マラソンで吹奏楽部諸君の歓迎演奏 》

第16回長野オリンピック記念マラソンが20日(日)開催されました。9535人の力走にエールを送るべく、吹奏楽部の諸君が応援演奏を南長野運動公園で行ってくれました。天候に恵まれた一日、学校から外に出て人と関わることの楽しさを味わったひと時でした。

「感動・・・。」今日は南長野運動公園で、長野マラソンの応援演奏をしました。8曲をローテーションしながら演奏しました。広徳中と30分交替で演奏したのです。演奏中、前を見ると、走って来る人たちが足をフラフラさせながら、笑顔で手を振ってくれたり、声を出してくれたり、それを見て私も笑顔になりました。先生がおっしゃっていたように、応援して元気づけてあげようと思っていたのに、逆に私たちが元気をたくさん頂きました。演奏して良かったと思いました。



皆さんの演奏に、9535人のランナーとボランティアの皆さん、どんなに喜んでくれたか。吹奏楽部の諸君、ありがとうございました。

～ ～ ～ ～ ～ ～
たくさんの笑顔とお土産話を持って、バスから降りてきた3学年の諸君が、旅行中に受けた様々な手助けや感謝に、今度は3年生の皆さんが生活の中で恩返しをする番になりますね。

皆さんも多分、阿修羅像と一緒に見てきたであろう、興福寺国宝館の「仏頭」を詠んだ詩を・・・

「こんな顔で」～興福寺の仏頭に寄せて～ 相田みつを

宮澤賢治の詩にある／「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」というのは
こんな顔の人をいうのだろうか

この顔は／悲しみに堪えた顔である／苦しみに堪えた顔である
人の世の様々な批判に／じっと堪えた顔である
そして／ひとことも弁解をしない顔である／何にも言い訳をしない顔である
そしてまた／どんなに苦しくても／どんなにつらくても
決して弱音を吐かない顔である／絶対に愚痴を言わない顔である

そのかわり
やらねばならぬことは／ただ黙ってやってゆく という／固い意志の顔である
一番大事なものに／一番大事な命をかけてゆく／
そういうキゼンとした顔である

この眼（まなこ）の深さを見るがいい／深い眼の底にある／
さらに深い憂（うれ）いを見るがいい
弁解や言い訳ばかりしている人間には／この深い憂いはできない

息子よ／こんな顔で生きてほしい
娘よ／こんな顔の若者とめぐり逢ってほしい



「今日はアースデーです。地球の環境を守るため、ひとりひとりが協力しましょう。」

春当たり前の毎日の生活が、様々な種類の仕事に支えられていることに気づくことがあります。学校生活の中でも、多くの仕事や心遣いに支えられています。

校務手の春原先生は朝、誰よりも早く仕事に就かれます。使い勝手の悪い箇所をいち早く見つけ、修繕し、生徒の安全に心を砕いてくださっています。

図書館の伊藤先生は、生徒の小説への要求に応えるべく蔵書管理に務めてくださっています。発行される「●」では生徒の知的好奇心を育てるべく書籍の紹介があります。

そして事務室では塚原先生と島田先生が学校の顔として、玄関の出入りを見守りつつ、生徒が突然「学割証明書」発行をお願いしても、温かく柔軟に対応してくださっています。

ひとつの集団や組織が当たり前のように過ぎていく上で、ひとりひとりの仕事がかげがえのないものだということを改めて感じます。それは、校内生活のみならず、学校外から寄せられる心遣いにも通じることです。

毎日を支えてくださる様々な場所での、何気ない縁の下の力持ちが、学校生活を豊かなものにしてくださっています。